



# 柏崎歩きマップ まちなか ~えきから・まちから~

## 「砂丘の上にできた 北国街道の宿場町 -まちの記憶 びっくりおもしろ発見-

- コース1 砂丘のまちの原点 今も残る高低差をたのしむ
- コース2 柏崎のはじまり 島町界隈と近世のまちをめぐる
- コース3 「ハマミチ」発見 海辺の暮らしをみつける
- コース4 石油産業を支えた柏崎 近代産業の歩みをみつめる



**12 八坂神社**  
やさかじんじゃ  
(A-4)

当初、和那美水門祇園社と称し、垂仁天皇の時代に創設。明治5年(1872年)八坂神社と改称。明治25年(1892年)、篠田宗吉により社殿が改築された。現在の「ぎおん柏崎まつり」は、ここ八坂神社が発祥である。

**13 柏の大樹跡(レンガ坂)**  
かしわのたいじあらねがいがく  
(A-5)

昔の鶴川河口の船着場から向こう岸にレンガ坂、その頂上に大きな柏の木があった。この木は遠く沖を漕ぎ行く漁師の目印となり、いつからかこの地を「柏の崎(みさき)」と呼ぶようになった。それが転じて、現在の地名「柏崎(かしわざき)」となつたという説がある。

**14 柏崎陣屋跡**  
かしわざきじんや  
(B-6)

寛保2年(1742年)白河藩(福島県白河市)のために新設。文政6年(1823年)から桑名藩(三重県桑名市)の飛び領となる。天保8年(1837年)には「生田方の里」と呼ばれる討ち入りもあった。明治維新後、柏崎県となつたが明治6年(1873年)新潟県に編入され、今は記念の碑が残る。



**1 厄除不動尊(不動院内)**  
やくよけふどんそん  
(B-2)

その昔、弘法大師が御丈七寸の不動明王を彫り、礎の石窟に安置した。後に、石窟が海中に沈むという夢のお告げがあり、この不動院を建て像を移し難を免れた。かつては、「波切不動尊」の名で呼ばれ信仰を集めていた。



**2 四つ家町**  
よつやちまち  
(C-2)

かつて、荒涼とした砂地に納屋だけがボンボンソソとあった。この地に軒の家が居を構え、人々は「四つ家浜」と言った。やがて「四つ家町」に発展したという。このあたりを歩くと、各家の間にかつてのハマミチの姿がうかがわれる。



**3 スリバチの底**  
すりばちのそこ  
(C-2)

この十字路は四方が上り坂で、なるほど、すり鉢の底のようだ。ここに「御金蔵の泥吐き場」と呼ばれた水溜めがあった。今は埋めたでられ、立派な宅地になっている。ここは柏崎の地形の中でも非常に面白い場所である。



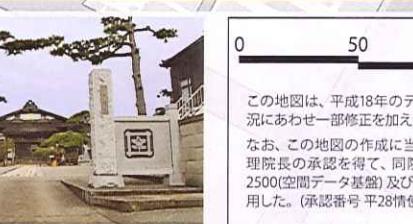
**4 明治天皇 行在所跡**  
めいじてんのう あんざいしょあと  
(D-2)

明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸の際に新築された。9月に往路、復路の2回宿泊。同3年(1902年)には皇太子時代の大正天皇も休憩された。昭和48年(1973年)、柏崎小学校改築のため解体、撤去され、今は建物跡を示す石碑がある。



**5 柏崎神社 ライオン像**  
かしわざきじんじゃ らいおんぞう  
(D-2)

社務所前に石彫りのライオン像がある。昭和参年森田信雄奉納 石工相澤藤次郎、小川由廣、相澤利八の銘が刻まれている。小川由廣作のライオン像は、松波謙訪神社などにも置かれている。



**6 妙行寺**  
みょうぎょうじ  
(C-2)

もじは真言宗。文永11(1274年)、佐渡に流されていた日蓮が赦免され、本州へ渡る際、嵐で番神に着岸した折に改宗して日蓮宗となる。番神堂は別院にあたる。戊辰戦争時には官軍の宿となり、その名残のほかにも多くの史跡が残る。



**7 柏崎四十八題 石碑群**  
かしわざきしきゅうじゅうせきひぐん  
(C-3)

江戸時代に流行した俳諧の中でも、正徳5年(1715年)刊行の「俳書 小太郎」は、柏崎と周辺の名所・風物四十八題を唄って挿絵を添え、人気となつた。今、この四十八題は、石碑として、石井神社に置かれている。



**8 石井神社**  
いしいじんじゃ  
(C-3)

海の神「住吉三神」をお祀りしていることから住吉神社とも呼ばれる。海運業と漁業で栄えたこの地で信仰を集めた。柏崎で最初に街頭テレビが置かれた場所といわれる。



**9 立地蔵**  
たちじぞう  
(B-3)

江戸時代、立地蔵・ねまり地蔵はともに北国街道の真ん中に鎮座し、足元は飛砂に埋もれていた。その様子から當時、背の低い現・立地蔵は「ねまり(根うまり)地蔵」、背の高い現・ねまり地蔵は「立地蔵」と呼ばれていた。「ねまる」は座るの意だが、後の発掘で両石仏の足元を確認したところ、呼称が逆であることが判明した。そこで明治期、日光・月光菩薩を備えた薬師三尊立像のほうを立地蔵に、延命地蔵坐像のほうをねまり地蔵に改めた。なお、明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸により遷座し、現在に至る。



**10 ねまり地蔵**  
ねまりじぞう  
(B-4)

洋食

### お買い物(お土産・お菓子・お酒・肉・魚加工品)

- 新野屋 (D-4) | ならのや | 纏代焼、くろ羊かん
- 猪爪酒店 (D-4) | いのつかせいてん | 地酒 銀の翼、姫の井かめぐち酒
- イトーヨーカード丸大柏崎店 (D-4) | いとよーよーかーどーまるだいぱくざきてん | 地下1Fに名産品売り場があります
- 最上屋 (D-3) | もがみや | 越の荒舟、かしわざき鯛サブレ
- 越後みそ西 西本町店 (D-3) | えちみそにしにしほんちうでん | 野菜みそ漬、味噌ドーナツ
- 神林精肉店 (C-3) | かみばやしせいいくとん | メンチカツ、豚肉の角煮
- 肉のいとう (C-3) | にくのいとう | いとうのメンチ、ギョーザメンチ
- 丸小鮮魚店 (B-3) | まるこせんぎょてん | 鮎の親子漬、自家製惣菜

### お食事

- ノマタ酒店 (B-3) | のまたけん | 新潟県産酒、果実酒(梅酒など)
- 田塚屋 (B-3) | たづかや | 鯛の子印 魚卵の塩焼き、鰯の親子漬
- 越の晉 景彩館 (C-4) | こしのほまれ じゅさいかん | 越の晉全種類販売。入館料、観見学、試飲は無料。※観見学は要予約(☎0257-23-3831)
- ア レストラン悠凪 (D-5) | れすとらん ゆうなぎ | お造り定食、海老フライ定食
- イ レストラン日本海 (E-5) | れすとらん にほんかい | 三味一鯛 柏崎鯛茶漬け
- ウ 食事処おはなし (D-5) | しょくじどころ おはなし | 刺身定食、松定食
- エ そばよし (D-4) | そばよし | チャーシューメン、焼きそば
- オ 田辺食堂 (D-4) | たなべやくどう | 洋風カツ丼、スタミナカツラーメン
- カ 盛来軒 (D-3) | せいらいけん | 平打ち麺の中華そば、マー婆ーメン
- キ 食事処どん家 (D-3) | しょくじどころ どんや | 日替弁当(昼限定)、ヒレカツ重
- ク 洋食のフババ (C-2) | ようしょくのふばば | 洋風カツ丼、ランチ類
- ケ いづみや食堂 (C-3) | いづみやしょくどう | ラーメン半カツ丼、ラーメン半カレー

### アカペ・喫茶店・甘味処

- 喫茶ポプラ (D-5) | さっばくら | コーヒー、モーニングセット
- TEA ENSEMBLE (D-4) | ティーアンサンブル | 紅茶、手作りオーガニックランチ
- 甘味処 館庵 (D-3) | かんみわくら あんあん | あんこ屋さん直営のスイーツ
- 珈琲創房 自由人 (D-3) | こひーそうば じゆうじん | 自由人ブレンド、バリ・アラビカ神山

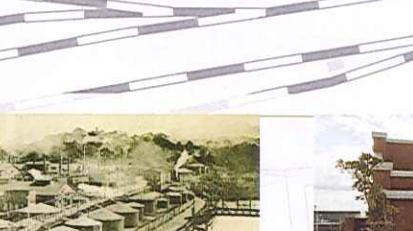
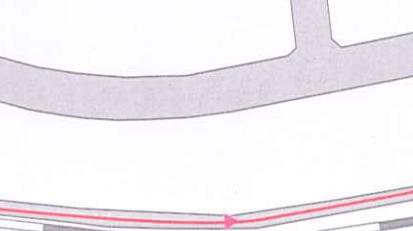
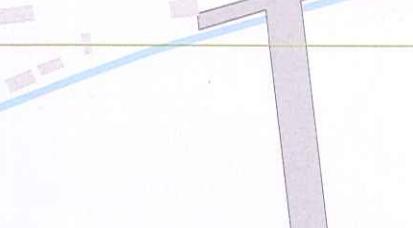
### ビューポイント

- ブルボン本社 13階展望室 | 海・米山 (D-5) | ぶるぼんほんしゃ じゅうさんかいひょうじゆうしつ | 市内で最も高いビルの最上階からまちなみを見ることができます。見学申込みはインターネット予約限定。「ブルボン展望プロア見学受付」で検索。
- 陸橋からの眺め | 砂丘の上からみるまちなか (B-3) | りくきょうからの眺め | さくのうからみるまちなか | 平成の切り通しに架かる陸橋。海が見える絶好のビューポイント!
- シユース雷音 | 宿泊施設 (B-1) | しゆーすれいおん | ロビーから見えるのは一面の日本海。日帰り入浴(水道水沸かし湯)あります。



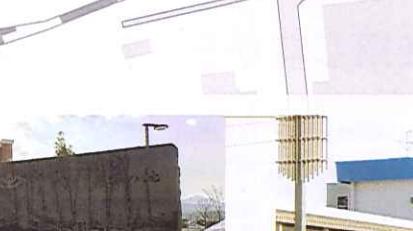
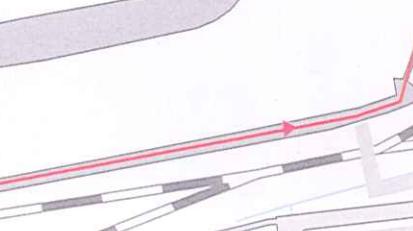
**19 旧日本石油 柏崎製油所跡**  
かしわざきせいゆ (B-5)

日本石油会社は西山町で創業し、北越鉄道開通の後、明治32年(1899年)大洲村大久保に本社と製油所を移す。大正3年(1914年)に本社を東京に、大正10年(1921年)に製油所を柏崎駅前に移す。跡地の一部は国際石油開発帝石(株)の事業所として今に至る。



**20 旧日本石油 柏崎製油所跡**  
かしわざきせいゆ (B-5)

北越鉄道の駅として明治30年(1897年)開設。明治40年(1907年)日本国有鉄道(国鉄)へ。今は、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)の駅。



**21 柏崎駅**  
かしわざきえき (D-5)

北越鉄道の駅として明治30年(1897年)開設。明治40年(1907年)日本国有鉄道(国鉄)へ。今は、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)の駅。